



上、玄関前の庭にはオリーブやロドリシアなど葉の色が明るく、軽やかな印象の樹木を植えた。下、パラソルに似合うベンチとテーブルを造作。足下は御影石とコンクリートの洗い出し仕上げ



エクステリアの周りの外壁の仕上がりや、庭の石畳のデザイン性の高さに、「ハウスファンタジ」ならではの熟練した職人の手仕事を感じられる



BEFORE

リノベーション前は日本各地で見られる昔ながらの古民家だった。新建材で建てられた増築部分は残念ながら朽ちていたが、天然の木材で造られた母屋は活かすことができた。改めて天然の木材の強さを思い知る

和風建築をモダンに彩る
スペイン漆喰の
美しい白壁。



母屋の裏にはなまこ壁が美しい蔵があり、その横のスペースが多目的に使えるエクステリアとして整備された

建物と調和する庭やアプローチが完成

筑紫野市の緑豊かな山間に行む「ハウスランド社」の古民家スタジオ「風のくら」。明治5年に建てられた築約150年の古民家を同社が買い取り、基礎を打ち直して断熱材や屋根を交換、室内も現代のライフスタイルに合うようにリノベーションを施した。公開当初から経年美を増し続ける「風のくら」は、スタッフは今も少しずつ手を加えているため、足を運ぶたびに変わっていく場所を探そうという楽しみもある。今回大きく変わったのは、庭やアプローチを含む外構部分。アールを描く外壁には家屋と同じスペイン漆喰とグレーの石レンガを使用。スペイン産のハンドメイドタイルやステンドグラスが目を引きアクセントになっている。

一般的に外構工事は外構専門の会社が行うが、同社は新築やリノベーションの施工と一緒に外構工事も引き受けることも多い。その理由は、「左官をはじめとする職人の仕事に自信があるから」。外構にも匠の技を活かせるからこそ、この「風のくら」のように家と調和した外構が実現するのだろう。また、母屋の裏には古い蔵をリノベーションした照明やタイルのショールームのスペースがある。この蔵の横も今年の春から夏にかけて整備され、多目的に使える鉄平石のエクステリアへと生まれ変わった。

「コロナ禍以降、改めて家で過ごす時間を大切にしたい、充実させたいという人が多くなりました。私たちもこのエクステリアのように庭や軒先を家の一部として活かしながら、心豊かな時間を過ごしてほしいと考えています。」

AFTER



150年もののモデル住宅
本物は、時を越える

日本の木造住宅の美しさを次代へ伝えたいと考える「ハウスランド社」が手がけた古民家再生の住宅展示場「風のくら」。かつては朽ちて壊れかけていた築150年の古民家は、同社のリノベーションを経て、新しい時を刻み始めています。今も敷地内のどこかが少しずつ進化し続けている「風のくら」で、リノベーションに取り入れたい本物の素材や職人の仕事にふれてみませんか。

